

授業づくり研修 ー道徳の授業・評価についてー

第2回の5年経験者研修は、初任者研修においてもご講義いただいた四天王寺大学の杉中康平先生をお招きし行いました。研修では、次の2つの内容を柱にご講義いただきました。

①道徳科の指導と評価 ～ 子どもたちの学びをどう見とるか ～

②『考え、議論する』道徳科の推進 ～ 「主体的・対話的で深い学び」につなげる道徳の授業 ～

平成30年度（2018年度）から小学校、今年度から中学校において道徳科が全面実施されました。講義では授業づくりのポイントや評価の具体的な話も含め、対話を軸に多面的で多角的に学び、道徳的価値の自覚や、生き方について考えを深める授業等についてグループワークを交え、学びました。

～ ふり返りシートより～

皿に盛りだくさんに盛られたりんごの例がともしっくりきました。子どもたちに伝えたいことは常にたくさんあって、つい盛りだくさんにしてしまいます。子どもたちがより道徳的価値について深く考え、高め合えるように発問を吟味することの大切さを改めて感じました。また、同じ豊能地区で働く先生方と指導案を見つめ直し、ともに考えることで、教材研究の仕方を学ぶとともに、授業づくりの楽しさを思い出しました。これから授業をするのが楽しみです。

初任の頃は国語と道徳の違いが分からず、読み取りをしてしまうような展開になっていましたが、やっと違いをふまえて授業をするようになってきました。しかし、指導案の添削をした時に、いつも多く話すぎていると思いました。“発問の精選”が今日、一番心に残ったフレーズでした。さらに、今日は精選の方法についても教えていただき、グループでもしっかり考えられたので、良かったと思います。

道徳の授業で子どもたちに考えさせる時間をどうしたらもっとつくれるのかなとずっと悩んでいました。先生の講義を受けて、こんなにシンプルにしているのだと少し安心しました。もっと発問を精選して、しっかり子どもが考えられる時間をつくりたいです。

「いつわりのバイオリン」は授業でやったことがありましたが、今回の講義を聞き、自分の授業を振り返ってみると、押し付けになっていたと思います。特にワークシートは準備しすぎるところがあるので、これからはシンプルなものを使ってみます。中学生はたいてい教材を読むだけでこちらの言いたいことが分かっている、「大切なこと」もすぐに出てきます。でも、それを実際の生活と結びつけてやってみようとはなりづらいです。そこを引き出していけるような授業をしたいと思います。

道徳の評価は所見と比べて、まだ書くのに時間がかかっています。今日の講義を聞いて、「おおくりの評価」があまりできていなかったと感じました。これからの評価ではつけられるようにしたいので、授業中の様子をより見とっていきたいと思います。

今年度から中学校でも道徳の教科化が実施されましたが、評価の仕方については、まだ今日学んだような視点になっていないと感じました。学年や学校で統一していくべきものなので、道徳教育推進担当の先生に聞きながら評価についても学んでいきたいです。

道徳の授業で見落としていた、もしくは避けていたところを改めて学習できました。「国語とは違う」という意識を持って授業を進めていたのですが、果たしてそれが本当に「生き方を問う」授業だったのかと聞かれているような感覚でした。自分自身、授業をする中で、「価値」のことを考え、それに沿った発問をつくり、振り返りをし・・・と、していたつもりですが、「生活にかえているのか」とずっとモヤモヤしているところがあったので、本日の講義で学んだことをもとに、もう一度「自分の授業」を崩して、作り直してみたいと思います。

5年という経験があるからこそ初任研の時よりもたくさんの気づきがあったと思います。杉中先生のお話がこれまでの実践と結びつき、実感を伴って理解を深める、学び多き研修となったのではないのでしょうか。